

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 2 月 15 日 (2007.2.15)

【公開番号】特開 2006-166490 (P2006-166490A)
 【公開日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-024
 【出願番号】特願 2006-34554 (P2006-34554)
 【国際特許分類】

H 0 4 M 1/57 (2006.01)

H 0 4 M 1/2745 (2006.01)

H 0 4 M 1/64 (2006.01)

【F I】

H 0 4 M 1/57

H 0 4 M 1/2745

H 0 4 M 1/64 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 12 月 26 日 (2006.12.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測手段を備えた通信装置であって、着信に応答しなかった場合には前記呼出時間計測手段により計測された呼出時間の計測結果を表示する一方、該着信に応答した場合には前記呼出時間の計測結果を表示しないようにすることを特徴とする通信装置。

【請求項 2】

呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測手段を備えた通信装置であって、着信に応答しなかった場合には前記呼出時間計測手段により計測された呼出時間の計測結果をメモリに記憶する一方、該着信に応答した場合には前記呼出時間の計測結果をメモリに記憶しないようにすることを特徴とする通信装置。

【請求項 3】

前記着信に応答したか否かを示す応答情報を表示することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の通信装置。

【請求項 4】

前記着信に応答しなかった場合には応答しなかったことを示す応答情報を表示し、該着信に応答した場合には応答したことを示す応答情報を表示することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の通信装置。

【請求項 5】

前記着信により取得された相手の電話番号を前記計測結果とともにメモリに記憶することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の通信装置。

【請求項 6】

前記着信により取得された相手の電話番号を表示することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の通信装置。

【請求項 7】

前記電話番号に発呼することを特徴とする請求項 5 または 6 に記載の通信装置。

【請求項 8】

着信日時を表示することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか一項に記載の通信装置

。

【請求項 9】

呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測ステップを含む通信方法であって、着信に 응답しなかった場合には前記呼出時間計測ステップにより計測された呼出時間の計測結果を表示する一方、該着信に 응답した場合には前記呼出時間の計測結果を表示しないようにすることを特徴とする通信方法。

【請求項 10】

呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測ステップを含む通信方法であって、着信に 응답しなかった場合には前記呼出時間計測ステップにより計測された呼出時間の計測結果をメモリに記憶する一方、該着信に 응답した場合には前記呼出時間の計測結果をメモリに記憶しないようにすることを特徴とする通信方法。

【請求項 11】

前記着信に 응답したか否かを示す応答情報を表示することを特徴とする請求項 9 または 10 に記載の通信方法。

【請求項 12】

前記着信に 응답しなかった場合には応答しなかったことを示す応答情報を表示し、該着信に 응답した場合には応答したことを示す応答情報を表示することを特徴とする請求項 9 または 10 に記載の通信方法。

【請求項 13】

前記着信により取得された相手の電話番号を前記計測結果とともにメモリに記憶することを特徴とする請求項 9 乃至 12 のいずれか一項に記載の通信方法。

【請求項 14】

前記着信により取得された相手の電話番号を表示することを特徴とする請求項 9 乃至 13 のいずれか一項に記載の通信方法。

【請求項 15】

前記電話番号に発呼することを特徴とする請求項 13 または 14 に記載の通信方法。

【請求項 16】

着信日時を表示することを特徴とする請求項 9 乃至 15 のいずれか一項に記載の通信方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】通信装置及び通信方法

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

前記の課題を解決するために、請求項 1 記載の発明では、呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測手段を備えた通信装置であって、着信に 응답しなかった場合には前記呼出時間計測手段により計測された呼出時間の計測結果を表示する一方、該着信に 응답した場合には前記呼出時間の計測結果を表示しないようにすることを特徴とする。

また、請求項 2 記載の発明では、呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間計測手段を備えた通信装置であって、着信に 응답しなかった場合には前記

呼出時間計測手段により計測された呼出時間の計測結果をメモリに記憶する一方、該着信に
応答した場合には前記呼出時間の計測結果をメモリに記憶しないようにすることを特徴
とする。

また、請求項 3 記載の発明では、請求項 1 または請求項 2 記載の発明において、前記着
信に
応答したか否かを示す応答情報を表示することを特徴とする。

また、請求項 4 記載の発明では、請求項 1 または 2 に記載の発明において、前記着信に
応答しなかった場合には応答しなかったことを示す応答情報を表示し、該着信に
応答した場合には応答したことを示す応答情報を表示することを特徴とする。

また、請求項 5 記載の発明では、請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載の発明において
、前記着信により取得された相手の電話番号を前記計測結果とともにメモリに記憶するこ
とを特徴とする。

また、請求項 6 記載の発明では、請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の発明において
、前記着信により取得された相手の電話番号を表示することを特徴とする。

また、請求項 7 記載の発明では、請求項 5 または 6 に記載の発明において、前記電話番
号に
発呼することを特徴とする。

また、請求項 8 記載の発明では、請求項 1 乃至 7 のいずれかに記載の発明において、着
信日時を表示することを特徴とする。

また、請求項 9 記載の発明では、呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計
測する呼出時間計測ステップを含む通信方法であって、着信に
応答しなかった場合には前
記呼出時間計測ステップにより計測された呼出時間の計測結果を表示する一方、該着信に
応答した場合には前記呼出時間の計測結果を表示しないようにすることを特徴とする。

また、請求項 10 記載の発明では、呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を
計測する呼出時間計測ステップを含む通信方法であって、着信に
応答しなかった場合には
前記呼出時間計測ステップにより計測された呼出時間の計測結果をメモリに記憶する一方
、該着信に
応答した場合には前記呼出時間の計測結果をメモリに記憶しないようにするこ
とを特徴とする。

また、請求項 11 記載の発明では、請求項 9 または 10 に記載の発明において、前記着
信に
応答したか否かを示す応答情報を表示することを特徴とする。

また、請求項 12 記載の発明では、請求項 9 または 10 に記載の発明において、前記着
信に
応答しなかった場合には応答しなかったことを示す応答情報を表示し、該着信に
応答した場合には応答したことを示す応答情報を表示することを特徴とする。

また、請求項 13 記載の発明では、請求項 9 乃至 12 のいずれか一項に記載の発明に
おいて、前記着信により取得された相手の電話番号を前記計測結果とともにメモリに記憶
することを特徴とする。

また、請求項 14 記載の発明では、請求項 9 乃至 13 のいずれか一項に記載の発明にお
いて、前記着信により取得された相手の電話番号を表示することを特徴とする。

また、請求項 15 記載の発明では、請求項 13 または 14 に記載の発明において、前記
電話番
号に
発呼することを特徴とする。

また、請求項 16 記載の発明では、請求項 9 乃至 15 のいずれか一項に記載の発明にお
いて、着信日時を表示することを特徴とする。

【**手続補正 4**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0005

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0005**】

本発明によれば、呼出信号を受信してから呼出中止までの呼出時間を計測する呼出時間
計測手段を備えた通信装置であって、着信に
応答しなかった場合には呼出時間計測手段に
より計測された呼出時間の計測結果を表示する一方、着信に
応答した場合には呼出時間の
計測結果を表示しない（記憶しない）ようにするので、複数の着信が記憶されている着信

履歴の中から応答していない着信を容易に見分けられるようにすることができる。